

取産香遺

Vol.89

「稲葉山神社」 富士山信仰の古社



▲稲葉山神社本殿



▲背面の臺股

稲葉山神社は、市の南部、

長岡地区に鎮座する古社で、

祭神は木花咲耶姫です。

社伝によると、大同元年

(806) 6月に駿河国(静

岡県)富士浅間大神を勧請、

創建したとされ、かつては浅

間大明神と称し「小山の浅間

様」とも呼ばれていました。

本殿は、正面柱間が一間の

切妻造平入りの建物で、正面

側に向拝(庇)が付き、その

分屋根が軒先まで緩やかに伸

びています。一間社流造と呼

ぶ神社本殿形式です。大正5

年(1916)に草葺から銅

板葺屋根に改められました。

身舎(建物本体)の軸部

は、4本の杉の丸柱(径約30

cm)を立てています。柱の上

部に突き出た木鼻と呼ぶ装飾

は、両側面には猊と象、背面

は獅子の彫刻が施されています。

また、向拝柱の上には獅子

の木鼻が付いています。

柱の上にある組物は、二手先

の出組で、妻飾りには、虹梁

の上に大瓶束が3本も立つ珍

しい構造を持ちます。

組物間の羽目板には本臺股を

入れています。カエルが両脚で

踏ん張っているような形の装飾

で、正・背面は各1カ所、左右

側面に各2カ所で、背面の臺股

には、富士山と思われる山の姿

を拜む人物が透かし彫りで描か

れています。

周囲には高欄を付けた縁を巡

らし、左右の脇障子には、竹林

に虎と、松と滝に人物が彫られ

ています。また、身舎と向拝柱

の間は戸板で塞がり、中殿へ繋

がっています。

組物や彫刻にわずかですが胡

粉や彩色の跡が残っていて、か

つては彩り鮮やかな姿が想像さ

れます。

棟札は、慶長15年(1610)

や寛文12年(1672)などの

ものが残されています。

市内でも数少ない江戸初期の

神社建築で、素朴ながら重厚な

雰囲気を持つ社殿といえます

(昭和53年12月市指定)。

問い合わせ

生涯学習課

☎(50)1224